

# オフショア銀行の機能を知り、目的にあった資産運用を

オフショアバンクというのは富裕層や著名人のためのもの？ あるいは誰でも利用できるものなのか？ 今回はオフショアバンクの定義とそのメリット、デメリットについてお伝えします。

## オフショア銀行に預けても納税義務はある

オフショアとは、「Off」「離れて」と「shore」「沖」が合わさった意味で、沖合、つまり海外を意味します。オフショア地域には、「Tax Heaven」（租税回避地）と呼ばれ、税制上の優遇を受けられる金融特別区があります。つまり、これといった産業がなく、天然資源に恵まれない小国・離島が、海外から産業を誘致するため、金融に対する合法的優遇措置を設定した「特別金融区」のことです。代表的なのはチャネル諸島や、ケイマン諸島ですが、これらの地域には金融優遇措置を受けられるため、世界中の金融機関が支店を設立しています。

オフショア（海外）に存在する銀行には、様々な理由から口座を開設

## オフショア銀行口座の真のメリットは保有資産の分散

税務署はこれを脱税摘発の機会と見なし、最後には誤ったアドバイスをきいた投資家自身に処罰が降りかかってくるようになります。オフショア区域内では源泉徴収されないからといっても、居住民に対して課税する日本のような国の住民であれば、個人が自国での納税義務がなくなるというのではないのです。アメリカ、ヨーロッパ、香港などに口座を保有することは、違法でも悪いことでもありません。問題なのは、海外口座や投資から得た利息や利益について税務署に報告をしないことなのです。従って投資資金を運用会社に送る前に、まず先にオフショア銀行の口座に送金し、文書足跡を少なくすれば、税務署は発見できないだろうという考えは、実に安直な考えだと言えるでしょう。

オフショア銀行に口座を開設する本当のメリットとは、保有資産を分散するという観点から日本国外に資産を保有する一手段であるという点です。世界中どこにいても自分の資産にアクセスできるといふ利便性や、高い守秘性や安全性を保てるという点もまたメリットとして挙げられます。オフショア銀行は、日本国内の銀行で外貨を保有するよりも、高い

し、資産を預ける方がいらつしやいますが、中にはその利点を誤解されている方も多いようです。そのよう

な方に共通する誤解とは、オフショアバンクの口座に資産を預ければ納税義務から免れることができる、というものです。そして海外へ直接投資する際にはオフショア銀行の口座開設をする必要がある、という考えです。主に、この二つの間違つた動機から、オフショアバンクに口座開設することを検討される方が多いのではないのでしょうか。

現在の日本の法律では、日本在住者は、どの国や地域に資金を保有しようとも、利息や利益を得ようとも、日本の税務署に対する報告義務があります。また銀行の所在地がどこであれ、毎年得た利息分の税金は支払う義務があるのです。

利率を提供しています。そして、インターネットバンキング、Eメール、FAXバンキング、テレフォンバンキングといった便利なサービスを受けることができます。また、地元の銀行口座からお金を引き出すときと同じように、ATMから預金を引き出すことができます。電信送金を使用することにより、簡単に、迅速に世界中にお金を移動させることができます。もし、旅行を頻繁にされる方でしたら、世界中どこにいても、自分の銀行口座に直接アクセスすることができるので、オフショア銀行口座は非常に便利なものとなるでしょう。

## オフショア銀行で問題となる言葉の壁

しかし、オフショア銀行は、英語が使える方にとっては、使い勝手が良いものですが、残念ながら日本語での対応を行っているオフショア銀行はあまりありません。投資目的でオフショア銀行を開設することは、いかがなものでしょうか。もちろん、日本語で銀行業務のサービスを行っている銀行もありますが、今現在、私が確認できているところでは、投資商品の説明を日本語で行っているオフショア銀行（プライベートバンクは除く）は皆無です。

## 海外直接投資にオフショア口座は不要

またもう一つの誤解、海外直接投資にオフショア銀行での口座開設が必要だという考えも誤りです。すべての投資家の方に必要なのは、直接投資資金を海外の運用会社のカストディアン口座に送金することです。つまり、日本の銀行口座から海外送金を行い、直接投資を行うことが可能ですので、必ずしもオフショア銀行に口座を保有する必要はありません。そして、数年後に投資家の方が運用商品を売却するときには、運用会社とその解約金を直接世界中の投資家の銀行口座（日本の銀行口座やオフショア銀行口座）へ送金します。送金先をオフショア銀行口座に指定した場合、その後日本への銀行口座への送金は、投資家自身が、自分で

国際投資で資産を増やそうと考える多くの日本の投資家にとって、コミュニケーションをとるために必要な英語力が大きな壁になると思います。残念ながら、世界共通語は日本語ではなく、英語だということは否めません。銀行口座は第三者（フィナンシャル・アドバイザーも含む）へ口座情報を開示することはできません。せっかく海外で銀行口座を開設したけれども、活用できないというケースを多々見受けられます。結局、投資に必要なのは、オフショア銀行口座ではなく、投資用の口座なのです。

## 投資目的ならばカストディ口座が有意義

前回お話ししたように、プライベートバンクやポートフォリオ・アカウンツ、ラップ口座といったカストディ口座を用いて投資をする方が、より有意義でしょう。カストディ口座を通して、株式、債券、ミューチュアルファンド、ヘッジファンドやオルタナティブ投資をより有効的に国際的に、資産を増やし、必要な時にそのカストディ口座から直接、日本の銀行口座に送金を行えば良いのです。最後に、特筆すべき重要な点としては、バハマ、バミューダ、ケイマ



リチャード・ケイン  
株式会社メイヤー・アセット・マネジメント  
マネージング・ディレクター

そのオフショア口座から日本の銀行口座に振り込むように手配をとることになります。しかし、繰り返しになりますが、オフショアの銀行口座を利用しても、日本の投資家が納税義務を逃れられるということではありません。

最近では、フィナンシャル・アドバイザーや旅行会社でさえ、香港への銀行口座開設補助をオフショアに含んだツアーを開催し、集客しているようです。現に、香港のHSBCやシティバンクでは、休日の定例行事のように日本人が時には数十人も口座開設のため列を成しているという話を聞きます。この現象は、オフショア（海外）にお金を隠せば、税金を払わなくてもよいという考えで、脱税を指南する人によって推進された噂がもたらしているのだと思います。これは大きな間違いです。

ン諸島、香港、シンガポール、スイスといった有名なオフショア地域は、極めて安全な投資環境を提供しているということなのです。事実、世界の半分以上の資産と投資がオフショア金融センターで行われており、多くの有名企業が投資チャンス求めてオフショアに集まっています。

もちろん、投資ごとに自身で常識的に判断し、評判の良い運用会社の商品を選択することは、重要ですが、国際投資に特化した経験豊かなフィナンシャル・アドバイザー、会計士、弁護士などに相談することも有効的な資産運用を行うための一つの方法です。

最近、ヘッジファンド業界の話題が新聞紙面を賑わしています。海外のヘッジファンドに投資するために、オフショア銀行口座を開設しようと考えている方も多かったのではないのでしょうか。次回は、ヘッジファンドについてお話ししていきます。

## メイヤー・アセット・マネージメント

オフショア・オンショアでの投資信託、不動産投資信託（REIT：リート）、プライベートバンク、PPB（プライベート・ポートフォリオ・ボンド）、ランドバンキングなどの幅広い選択肢から最適なプランを提供する独立系のフィナンシャル・アドバイザー  
www.meyerjapan.com